○四方地区タウンミーティング議事録（概要）

日 時：令和6年7月27日（土）

午前10時から午前11時30分

場 所：四方公民館

出席者：41人

テーマ1 防災対策（防災危機管理部）

<主な説明事項>

- 1 能登半島地震の状況
- 2 能登半島地震における課題
- 3 課題に対する取り組み
- 4 防災対策におけるそれぞれの役割

【防災危機管理部の説明に対する質問】

・東北の震災と能登の震災、両方、冬場に起こっています。避難訓練を冬場に実施することは難しいのはわかりますが、震災は必ずしも過ごしやすい時期に起こるわけではないこと、集中豪雨が夏場に起こる可能性が高いということを思うと、訓練のときに季節感を考えた対応をされているのか気になります。

また、震災によって電気が止まるかガスが止まるか、場所によって変わってくると思いますが、避難所の空調がガス式か電気かで、起こったときの対応や避難の場所が変わってくると思います。そういったことについてもお聞かせください。

（防災危機管理部長）

いつ、どこで、どんな規模で起こるかわからないのが地震です。そして地震の他に、浸水被害があり、その災害の種別、起きた場所によって避難行動が変わるということをおあらかじめ、各地域の皆さんで共通理解をもってもらいたいことが大事だと

思っています。その上で、ご質問にありましたように、例えば、冬期の避難訓練が必要じゃないか、もしくは冬期の備えが必要じゃないかということについては、全くそのとおりですが、できるものから順次やっていくということになるかと思えます。まずはもう一回お願いですが、持ち出し品として、「毛布」を持ち出してください。避難してすぐに、全避難所でストーブが用意してあるかというところというわけではありませんので、ご自身の防寒対策や、直近の食事の用意、そういったものについては持ち出してくださいということをお願いします。避難していただいた後に必要な物品等につきましては、順次、配送させていただくことになりますので、ご理解ください。避難訓練の時期や規模については、地域の方と一緒にしていますので、地域のご意見を聞きながら検討してまいりたいと思います。

空調については、体育館が避難所になっているケースがほとんどですが、現状、体育館に空調はほぼないのかなと思います。避難所に必ずしもクーラーがあるわけではないということをご理解いただきたいと思います。

・災害対策に関して、熊やイノシシなどの獣害対策はどうなっていますか。

(防災危機管理部長)

広義で言うと、危機管理対策の1つになるかと思いますが、セクションとすれば私どもは自然災害の方を中心に扱っています。熊対策については、市の農林水産部が主導でやっており、我々防災危機管理部は、熊が出たら広報車を出し、周辺の皆様に周知する役割を担っています。

・四方地区は、避難場所として、その四方公園と四方小学校グラウンドなどが指定されていますが、海に面している人たちは、津波が来るまでの時間が非常に短く、四方地区も高齢の人が増えてきています。歩いて逃げようというよりも、どちらかという、車に乗ってできるだけ海から離れたいという気持ちになったし、半分以上の方が山手の方を目指されました。そこで問題になったのは、渋滞です。8号

線バイパスが通っていますが、信号の間隔が、東西方向の青信号が長く、南北方向の青信号が少し短いような気がします。信号の切り替わりについて、市では(対応)できないかもしれませんが、県との協議の中で、ぜひテーマの中に入れていただけたらと思います。

(防災危機管理部長)

まず、津波の避難の際、車を使って逃げていただくというのは、決して得策ではないと思います。車は、流されると思います。では、「走って逃げて」と言われても、どこまで逃げればいいんだという不安はあると思います。能登半島地震で、富山市に津波の第一波が来たのは、揺れ始めから3分後だそうです。すべての地震がそうであるとは限りませんが、相当早いタイミングで津波が来ることも想定されます。そうなったときに、「垂直避難」ということを考えていただくのがとてもよいのではないかと思います。ご自宅の2階に逃げる、もしくは近くのご親戚や会社の2階以上に逃げさせていただくというようなことが、よいのではないかと私は思います。けれども、それぞれのおうちの状況や位置によって、逃げ先が異なると思いますので、やはりご家族で、いざ起きたらどこへ行こう、ここで集合しようということを決めておいていただくのが大事だと思います。結果として、揺れた瞬間にどこでどう津波がくるというのは誰も判断できないんですが、ご自身で後悔しないように、どう逃げるかということはあらかじめ考えていただければと思います。

信号の話ですが、おっしゃられたとおり、警察の方で信号を管理されており、震災発生直後の信号の時間差を変えることができるのかどうか、もしくは必要かどうかということについて言えば、いささか議論が必要な部分だと思いますので、ご意見としては一旦承りますが、現実にはちょっと厳しいのかなと思っております。

・(続き) わかりました。ですが、1月に発生した津波の高さは3メートル。私の身長
の倍ほどです。海に面している家がたくさんあります。そこをやはり、一番に
考えてもらいたいと思います。

(防災危機管理部長)

おっしゃるとおり、市では呉羽山断層帯の地震によって、この四方地区の海岸部については、ある程度の津波高が出るということも想定されています。特に海沿いにお住まいの方については、もし揺れた場合、この辺り（四方公民館）まで逃げてきていただければ、津波高の被害の影響を受けないエリアになっています。もちろん、避難場所の四方小学校もそうなっていますので、まずはそういった避難行動をとっていただく、時間的余裕がない場合は2階へ逃げていただく、ということ覚えておいていただければと思います。

テーマ2 ごみの減量化施策と家庭ごみ有料化の検討（環境部）

<主な説明事項>

- 1 ごみの減量化への取り組み
- 2 家庭ごみ有料化の検討

【環境部の説明に対する質問】

・資源物ステーションが、市内に8か所開設されているという説明がありました。再利用できるものでも、可燃物の中にまぜて出すという風景をよく見ます。そういったことを防ぐ意味でも、資源物ステーションを8か所だけではなく、もう少し増やし、できれば四方の方にも作っていただけたら、リサイクルに対する気持ちも高くなると思います。

(環境部長)

おっしゃるとおり、今の資源物ステーション8か所というのは、もう少しあればいいなというのが実感です。しかしながら、設置するには、周辺の状況、例えば、民家から少し離れていることや、地元のご理解、準備費用の問題があります。そういったことがありますので、私も今のご意見はしっかりと受けとめさせていただき、

数を増やしていけないかということについては、今後、検討してまいりたいと思っています。

・つばめ野では、新聞雑誌を年中ストックする場所を設けました。当時、小学校のPTA会長をされた方が意見を出されて、ごみステーションを作りました。それは大変いいことだと思います。資源物ステーションを作るというよりも、そういう場所を各町内で作る、そういう町内を増やしていった方がお金もかからないし、いいことだと思いますが、どうでしょうか。

それと私は団塊の世代なんですが、紙のことに対してはすごく神経質で、小学校、中学校、地区、それと私が関係している施設は廃品回収のお金を利用して施設の運営費にしているの、そこへも持って行っています。しかし、新聞は2、3日分だけとってみんな捨てていると言う方もいます。同じ団塊の世代なのに、どうなのかなと思うような方も何人かおられます。その年代の方にもっと協力してもらえないかといつも思っています。

(環境部長)

今、様々な生活様式の方がおられます。三交代勤務の方、単身世帯も多くなっています。いろんなご都合で、資源物をごみ収集の日に出せないという方もおられます。そういった方の利便性も考えて、資源物ステーションが設置されているわけです。一方、各町内会にあるごみステーションも、きめ細かに、数多く設置されています。どちらも大切なものと思っています。ごみステーションについては、設置のための補助金の制度がありますので、各町内会で、増設や新たに作り直したいということがありましたら、市の環境センターの方へご相談いただけたらと思います。

そして、紙ごみのことをおっしゃいましたが、燃やせるごみの組成調査の分析の中でも、紙は燃やせるごみにかなり入っていますので、私も一層の周知が必要だと思っています。今後とも努めてまいりたいと思っています。

・有料化については、やぶさかではないです。ただ、例えば、26億円かかっているごみ処理の費用を20億円にまで減らしてから、有料化に踏み込むというような流れというか、ごみの量を減らすという地域住民の意識づけが、まず大切なのではないかと思います。私の友人でも、ごみを全く分別せずに所定の場所へ置いて、意識の欠片もないという人もいますので、まずは意識づけをして、その上で有料化に踏み込んだ方が、26億円の費用をもう少し絞り込めるとと思います。市の方でも住民の方でもそういう努力が必要だと思っています。

(環境部長)

おっしゃるとおり、市民の皆さんのごみに対する意識、これをもっと変えていきたいと強く思っています。例えば、本市としましては、集団回収や分別収集などを以前からずっと取り組んできていますが、まだまだごみを減らす余地があると思っています。そういったことから、4月からプラスチック資源の一括回収に取り組んでおり、古くなったポリバケツや、壊れたじょうろなどのプラスチックの製品を、これまでであればごみ袋に入れて、燃やせるごみで出しておられたものも、資源として回収しリサイクルに回す取り組みをしています。いろんな取り組みを数多くやっていますし、これからもそれを1つ1つ評価していきたいと思っています。例えば、ダンボールコンポストを普及させたいと思っています。

そうしたことでごみを減らしていくわけですが、ごみ処理経費については、なかなか下がっていかない。燃料代や、車両の維持管理費など、目に見えて大きく減らせるようなことになっていないというのが現状です。ごみの減量化を進めるとともに、有料化についても検討していきながら、皆様に少しでもご理解をしていただけるよう、説明する機会を増やしていきたいと思っています。そういうことで、先ほどお話ししたフォーラム等も開催したいと思っています。

・去年の10月頃、四方校下でペットボトルやプラごみの話が1回出たかと思えます。町民の方たちがペットボトルを綺麗に洗って、ラベルを剥がして、再利用する

ような形で、ごみの回収の日に出しておられるのに、回収の市の職員の方々は、ほとんど「燃やすごみ」で回収していったということでした。そしたら、市民の方が「私たちは何のために綺麗に洗ったり、ペットボトルのカバーを外したりしていたんだ」と少し紛糾し、市の方も答えに窮していました。せつかく、市民の方々がいろいろ協力してくださっているのに、なぜその芽を摘むような方向に持っていくのかと（思います）。それなら回覧版や広報等で、「これはごみです」とか、「これは回収します」といったことをはっきりと示していただきたいと思います。

・倉垣にも環境センターから来てもらいました。プラスチックのふたとラベルはプラの日に出せるけど、ペットボトルは駄目だと言われました。皆さん、水で洗ったりして出していたんですが、それは燃えないごみではなく、スーパーで回収しているからスーパーへ持っていくようにと言われました。ただ、私ども倉垣は、年寄りの方が多く、車もない。交通面も不便。スーパーもないんです。この和合地区でもペットボトルを回収する日を決めたらどうですか。

(環境部長)

他の地域ではペットボトルを回収しているところもあり、こちらの細かい事情を存じ上げませんでした。今のご意見を踏まえて、少しでもそういったことができるように、前向きに考えたいと思います。

・ペットボトルの件ですが、ペットボトルだけ大きい袋に入れてプラの回収日に置いてありましたが、回収してありませんでした。ペットボトルはスーパーでしか集めないから、市では回収しないということで、そのまま置いてありました。市ではどのように周知されているのですか。

(環境部長)

私、十分承知していませんでしたが、皆様、ペットボトルの件で、大変ご不満、ご迷惑をおかけしていることがわかりました。旧富山市、旧婦中町については、スーパーや資源物ステーションが複数ありますので、そういうところにペットボトルを出してくださいと案内しています。ただ、せっかく綺麗に洗って分別して、ごみステーションに出していただいたものが資源物として集められていなかったということだと思いますので、先ほども申し上げましたとおり、前向きな検討をできないかと思っているところです。今の時点ではこういった回答になることをお許しください。

・不法投棄についてお聞きします。現在、資源ごみやプラスチックごみでも回収されず放置してあり、それを一般ごみとして、町内会（自治会）が可燃ごみの日に渡しているんですが、有料化になった場合はどのようにするのか、パトロールを行うのであれば誰がするのか、監視カメラをつけるのであれば誰が監視カメラのデータを確認するのかなど、どのように考えているか教えてください。

（環境部長）

現在、有料化をすると決まっているわけではありませんので、他都市の例をあげてご紹介させていただきます。不法投棄については、例えば、町内会に本来有料のごみ袋を無料で配って、それで町内会で処理していただくようにご協力をお願いしている自治体もありますし、有料化に伴う手数料の収入の中から監視カメラを設置する経費に充てていくという自治体もあります。いろんな自治体が不法投棄について苦慮しておられますので、私どもとしてはいろんな実例をしっかりと調査しながら、検討させていただきたいと思えます。

【その他意見交換】

・私もペットボトルを綺麗に洗って、ラベルも全部剥がして、ふたも全部取って出しました。後で見に行くと、「協力店へ持って行ってください」という紙が貼って

ありました。協力店とは何かと思いました。市がスーパーに協力店になってほしいとお願いしておられるのですか。それとも、先方から自発的に協力店にならせてほしいと言ってこられるのですか。私は西岩瀬ですが、近くに新しいお店ができました。しかしそこは協力店ではないので、ペットボトルをためてわざわざ石坂まで持って行っています。

(環境部長)

ペットボトルについて、皆さん、ご不満があるということが認識できました。協力店については、市の方から要請しているケースと、お店の方から協力すると言っただけのケースがあります。この地域にスーパーがないということですので、また私の方から、なるべく近くのお店に足を運んで、協力してもらえないか要請することと、今の実情を踏まえて何かできないかということを検討したいと思いますので、ご理解のほどお願いいたします。

・今の件については、私の町内でもクレームがあり、私も町内会長をしている手前、地区センター長、富山市に確認しました。富山地域では、ペットボトルを協力店、スーパーなどで集めています。どうしても協力店へ持っていけない人は、綺麗に洗ったものを別の袋に入れて、燃やせるごみの日に出してくださいという回答を受けていますし、そのように広報にも出ています。それを理解されずに、お話しされていても、富山市の対応も悪いんですが、ちょっと理解不足なのではないかと思えます。どうしても行けないという場合は、現状は燃やせるごみに出せることになっていますので、その辺を理解して、取り組んでいただければと思います。

(市長)

リサイクルについて、今ある資源を有効に生まれ変わらせていくということは、環境にとっても、将来の市民にとっても、大事なことです。集積場でペットボトルを集めている地域もありますので、今までの地域の慣習があったのか、一度洗い直

して、再資源化できるものは、資源として集めてリサイクルに回すという方向でしっかり検討していきたいと思っています。先ほど部長も言いましたが、ごみステーションの補助金制度があります。町内会のごみステーションをもう1枠増やせば問題を解消できるのか、できないのかも含めて、個別に相談させていただければと思いますので、環境部や環境センターに言っていただければと思います。

やはり一番大事なのは、防災関係もですし、例えば、ごみ処理の問題、道路、橋りょう、公共施設、小学校も含めて、子どもが減っていく中で全ては支えられません。どれを残すのか、2つを1つにするのか、3つを1つにするのか、そういうような議論も必要ですし、できるだけその利便性を損なわないようにするというのも大事なんです、市民の皆さんの負担になるわけです。

ごみの有料化も、今の私たちが出すごみを片付ける話であり、それを将来の子どもや孫につけまわしてできますか、できませんよね。しかし、今の私たちが全部を負担することはできないので、ゆるく将来に負担してもらいながらやっていく。道路も橋も、漁港も、公共建築物も全部一緒なんです。ですから、どこまで住民に負担を求めていくかというのは、お互いの理解が一番必要ですので、丁寧に進めてまいりたいと思います。

ただ、私は今日皆さんから様々な意見が出て、それもやはり地域のことを愛するがゆえに、真剣におっしゃっている姿を見て幸せだなと思いました。地域の見守り隊や、民生委員児童委員の活動、町内会や自治会活動など、本当に皆さん一生懸命やっただいてるので、こういうことに対して富山市は一生懸命応えていかなければいけないと、今日感じさせていただきました。また、何かあれば、いつでも気軽に地区センター等を通して、富山市に教えていただければと思います。ともに頑張ってください。

・今日、和合地区の方が多いと思いますが、私が聞いている話では、A店でペットボトルを集めようとしているようですが、B店で買ったものをA店へはなかなか

持っていけない。それで先ほど言っていた資源物ステーションを、できれば和合地区に1つ設置していただけないか、市長にお願いします。

(市長)

前向きに議論させていただきますので、相談させてください。ありがとうございます。

※ 発言の一部を整理して掲載しています(広報課)